

資生堂、新居浜市、住友林業で三者協定を締結 ～木のトータルコーディネートサービスで「BAUM」植樹活動をサポート～

住友林業株式会社(社長:光吉敏郎 本社:東京都千代田区、以下住友林業)は株式会社資生堂(会長 CEO:魚谷雅彦 本社:東京都中央区)のブランド「BAUM(baum)」が愛媛県新居浜市「BAUM ひのきの森」で行う植樹活動をサポートします。活動開始にあたり、資生堂、愛媛県新居浜市(市長:石川勝行)との三者協定を1月11日に締結しました。



BAUMでは2024年より四国地方のヒノキ原木をチップ化し、丁寧にエキスを抽出・蒸留した「ひのき水」をBAUMの主要スキンケア5品に配合。さらにBAUM店舗内でヒノキの苗木を育成し、2024年5月下旬から愛媛県新居浜市内に位置する「BAUM ひのきの森」へ植樹します。住友林業は植樹活動の他、原材料となるヒノキチップの提供、店頭で育てる苗木の提供・メンテナンス、店頭で育った苗木のさらなる育成、植樹した森の管理等で同ブランドの活動をサポートします。

「樹木との共生」をテーマに掲げる資生堂のブランド「BAUM(baum)」は「樹木の恵みを受け取るだけでなく、自然に還していく」というブランドの哲学に基づき、森林資源を循環させる取り組みを行っています。

住友林業はBAUMが誕生した2020年6月から、「木」に関するノウハウを一元化して提供するトータルコーディネートサービスとして同ブランドの活動に協力。今回の取り組みは、2021年より継続している岩手県「BAUM オークの森」に続く植樹サポートの第二弾です。「BAUM オークの森」ではパッケージの木製パーツに使用するオーク(ナラ)の苗木をBAUM店舗内で育成し、毎年600本を植樹しています。



※ 参考リリース:資生堂、岩手県、住友林業で三者協定を締結「BAUM オークの森」での植樹活動をサポート <https://sfc.jp/information/news/2021/2021-09-09.html>

新居浜市は別子銅山の「銅山備林」経営を原点とする住友林業グループゆかりの地です。当社は別子山市有林の森林整備や「新居浜市SDGs推進企業」への登録等、新居浜市と様々な関わりがあり今回の取り組みが実現しました。

住友林業グループは森林経営から木材建材の製造・流通、戸建住宅・中大規模木造建築の請負や不動産開発、木質バイオマス発電まで「木」を軸とした事業をグローバルに展開しています。この住友林業グループのバリューチェーン「ウッドサイクル」を活かし、ステークホルダーのニーズに応じて、「森」「木」「緑」に関する様々な知見をトータルコーディネートサービスとして提供しています。今後も自治体や民間企業の森林管理や環境保全の取り組みをサポートすることで、自社のみならず社会全体の脱炭素に貢献します。

■協定概要

<調印者>

- ・ 愛媛県 新居浜市 新居浜市長 石川 勝行 (いしかわ かつゆき)
- ・ 株式会社資生堂 Baumグローバルブランドユニット 室長 西脇 文美 (にしわき あやみ)
- ・ 住友林業株式会社 森林・緑化研究センター長 中村 健太郎 (なかむら けんたろう)

<協定内容>

- ・ 協定期間: 2024年から10年間

- ・ 所在地：愛媛県新居浜市床鍋(新居浜市有林内)
- ・ 面積：2.10ha
- ・ 森林の名称：BAUM ひのきの森
- ・ 整備内容：年間あたりの植樹面積を 0.20ha とし年約 600 本のひのきを植え、下草刈り等の保育を実施

＜植樹活動目標と留意点＞

土地に自生する動物や環境に配慮した植樹活動および森づくりを心がけ、植樹を通じて自然なひのきの森を育成することを主な活動目標とします。

＜リリースに関するお問い合わせ先＞

住友林業株式会社

コーポレート・コミュニケーション部 福永・河村

TEL:03-3214-2270 / Email:cocom@sfc.co.jp

＜ サービスに関するお問い合わせ先 ＞

森林・緑化研究センター 喜多・中村

TEL:03-3214-3635